

平成26年度第3回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成27年1月16日（金）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、渡辺委員、中村委員、高田委員、日立製作所、FUJITSU エンバシー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

実践的な学修の仕組みづくりについて、構想力を育成する教育について検討を進めた。学びの構造について、学生グループに産学連携のアドバイザーをつけてネットを活用したPBLの教育を考え、教育内容として、PDCAの理解、構想力の理解、構想力の実際として構想力の育成を図る仕組みが提案された。また、コンテンツ制作で総合的な企画能力を身に付ける授業例が紹介された。

1. 委員の意見

- ・ 知識を活用できることを大学に入る前に見定めさせること。大学に入学したら主体性、多様な価値観を持ってチームで行動、イノベーションの構想ができることが求められる。
- ・ イノベーションを創出する高度な人材育成、起業家精神の育成、ICT活用、情報モラル、プログラミング、セキュリティ人材の育成・確保などが必要となる。
- ・ データサイエンティストのスキルとしてビジネス力、データサイエンス力、データエンジニアリング力が求められている。
- ・ データ活用として、意味を抽出して価値を創出することも求められる。
- ・ クリエイティブな人材を増やすことが求められている。さらには、クリエイターは感性に分析能力を組み合わせればより有効になる。
- ・ 構想力の育成は、第一段階として初年次向けの教育を考えている。構想力の理解では、観察からスタートさせ、どこでうられ流通されているか、サービスや特長のリストアップ、新しいシナリオから製品のアイデアを創出する。
- ・ 生活空間等の環境を想定し、環境の中で利用する製品のシナリオを策定して流通・販売についても考えさせ、見直しをかけて改善を図る。
- ・ 観察、価値を考える、新しくイメージすることの3段階にしてはどうか。
- ・ テーマが重要ではないか、ファシリテータの力が求められる、多様な価値を持つ人を入れる必要がある。
- ・ 多様性をどのように教育するか、産学連携の取組みが求められる。また、大学連携やグループの異なる分野で構成される。
- ・ プランニングの深さ、学びのプロセス（PDCA）に気づいてもらうことが必要。
- ・ グループ（チーム）で互いに持っているものを最大限に発揮する。チームは1回ごとにシャッフルしてはどうか。
- ・ ファシリテータは有識者を登録できないか、または学生のファシリテータ。
- ・ 実施時期は、例えば、夏休みでの集中講座ではどうか。共通教育としてのものではどうかなど数パターン考えてはどうか。
- ・ 例えば、モバイルコンテンツの企画能力を身に付けるなど、イメージテーマをいくつかあげてはどうか。
- ・ 挫折してしまう学生が危惧される。入学してプログラムでゲームが作成できると思っていたがドロップアウト。気力のない学生。学生に何がしたいのか気付かせる必要がある。学生に自分の力量を確認させる必要があり、その途中で失敗を経験させてはどうか。キャリアデザインとしてやりたいことができる社会との接点を経験させる場づくりが必要ではないか。
- ・ 4年間のカリキュラムでPDCAを考えてはどうか。例えば、1年でP、2・3年でDを実施するなどを想定してはどうか。
- ・ 今後は、ネット上でプロジェクト化が進み、課題を解決する事象が多くなるのではないか。その社会に対応できるスキームとならないか。
- ・ 単位は設けないこと。大学や大学連携での取り組みとして大学の枠を超えた教員の協力が必要となる。
- ・ 外部の有識者（退職した教員を含む）や海外の人材も含めた展開を図りたい。

V. 今後のスケジュール

- ・ 3月の産学連携人材ニーズ交流会で構想力を培う教育を紹介することになっている。